

個性が伸ばせない学校教育

発明王エジソンも、その強い個性のために受け持ちの教師からひどく嫌はれ、どうしようもない問題児であるといふ評価を受けました。それで、母親が家庭で彼を教育し、そのお蔭で彼の個性は損はれずに伸ばすことが出来、世界一の発明王になれたのです。

学校といふ所は、このやうに強い個性のある子供を受け容れない所ですから、エジソンのやうに個性の強い子供は学校に行かせないで、家庭で教育した方が良いでしょう。アメリカには、それが出来る自由があるから良いのですが、日本にはその自由がないから困ります。学校へ行かないであると、「登校拒否児」といふ烙印を押され、非行少年少女の扱ひを受け、その将来を鎖されてしまふ恐れがあります。

欧米諸国の良い所は、ルース・ローレンスのやうに、能力さへあれば12歳でも大学に入ることが出来、しかも、普通なら3年かかる所を2年間で済ますことも出来るやうになってゐることです。ですから、学校が個性をつぶすとしても、その害は日本ほどひどくなくて済むはずで

す。ところがわが国では、どんなに高い学力があつても、18歳にならないと大学を受験することが出来ません。ですから、当然の事ながら大学に入ることが出来ません。従つて、どんなに能力が高くてもその能力に

じた学問を進めて行くことが出来ず、言はば“足踏み”をさせられることになるのです。これでは、折角伸びようとしてゐる「学問に対する情熱」も冷めてしまふでせう。これが、わが国に世界的な発明発見が少ない理由だと私は思つてゐます。江崎玲於奈氏や広中平祐氏のやうに、アメリカの自由な社会で研究することの出来た人たちの中には世界的な発明発見をしてゐる人がゐる所を見れば、日本人にも発明発見の資質が無いわけでは無いことが判ります。

私は、人間らしい人間とは個性豊かな人間のことだと思ひます。個性の無い人間など面白くないし、人間社会にとつても価値が乏しいのではないでせうか。“教育”とはその人の個性を伸ばすことに力を貸すことであり、それは親から子へと受け渡されるものであり、代を重ねるに従つて発展させて行くべきものだ、と思ひます。だから、“教育”は「親と子の交はり」にその原点があり、そこから始まるのです。